

第7回 JaF-DaF フォーラム開催のお知らせ

ドイツ語圏における日本語教育および日本におけるドイツ語教育の現状や問題点について情報交換を行なう本フォーラムは、毎年ドイツ語圏大学日本語教育研究会（JaH）シンポジウムに合わせて開催しており、今回で7回目となりました。国際交流・研究協力等に関して、自由な意見交換やネットワーク作りの場をつくることを目的とし、日独の共同プロジェクトや実践報告の発表やディスカッションを行っています。

今回はJaHシンポジウムの会場校レーゲンスブルク大学で、「ドイツ環境ゼミ」を実施されている信州大学の松岡幸司先生に基調講演をお願いいたしました。ドイツ語教育、日本語教育等に関心のある方、日独の共同研究に興味をお持ちの教員、学生の方の参加をお待ちしております。

なお、同日午後からJaHへの参加を希望される方は、HP (<https://www.japanisch-an-hochschulen.de/j-sympo-aktuell.php>) より直接お申し込みください。

第7回 JaF-DaF フォーラム プログラム

日時：2020年2月28日（金）10：00-12：30

会場：レーゲンスブルク大学 Vielberthgebäude H25 教室

主催：JaF-DaF Forum 実行委員会 共催：日本独文学会ドイツ語教育部会

10:00-10:05 趣旨説明：杉原早紀（ハンブルク大学）

10:05-11:00 基調講演：松岡幸司（信州大学）

「学ぶ」から「使う」ドイツ語へ — 「ドイツ環境ゼミ」の射程

11:00—11:40 発表・ミニワークショップ：中川慎二（シュタイアーマルク教育大学、関西学院大）

事前研修—危機的事例法を用いたトレーニング

11:40—12:10 発表：Christopher Keiichi Schmidt (Ninomiya)（ハンブルク大学）

12:10-12:30 総合討論+各参加者による情報交換

司会：

杉原早紀（ハンブルク大学）・中川慎二（関西学院大学）・林良子（神戸大学）

基調講演概要：

「学ぶ」から「使う」ドイツ語へ — 「ドイツ環境ゼミ」の射程

信州大学全学教育機構准教授 松岡 幸司

「ドイツ環境ゼミ」は、ドイツでの「2週間の語学研修（レーゲンスブルク）+1週間の環境視察（ハノーファーでの三日間の団体視察と、各自のテーマに従ったドイツ各地での個人視察）」を中心として、事前学習と視察報告会及びレポート作成、それに独検3級の合格を課すことで単位を認定する、という形の授業であり、学生は一年次の後期から二年次の前期にかけて履修することになる。このゼミは、ドイツ語学習と「環境」という特定のテーマを結びつけた、ある意味で総合的な狙いだけでなく、「ドイツ語の学習」と「自分の興味・関心」を結びつけることで、ドイツ語の習得に「現実感のある具体的な目標」を設定させることも念頭に置いて開講されている。これは英語偏重が進む大学において「なぜドイツ語/第2外国語を？」という問いに対する答えの一つとして考えられよう。

今回は、このゼミを開講するにいたった経緯、ゼミの内容と成果について報告した後、グローバル化が叫ばれる中、英語だけでは身につかないグローバル感覚や異文化理解について触れたい。